

公表日 2026年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 池辺教室

保護者等数(児童数) 25名 回収数 21件(割合84%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19			2	実際の様子を見ていないので分かりません	ご見学対応できるので、いつでもご覧いただけるようご案内はしている。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1		2	実際の表裏を見ていないので分かりませんでした。	職員の配置数が「どちらともいえない」とのご意見が上がったという事を踏まえ、保護者様のご不安と丁寧に向き合いたいと考える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	4		1	子どもが困っている様子がないので、バリアフリーに対して、生活空間に関しては「はい」です。 施設に入る為の階段が少し急なので、わが子がお友達と登る際、転んだり押ししたりしてしまわないか心配です。それ以外は大丈夫だと思います。	事業所が2階にあるため談話に関しては致し方ない。階段の昇降に関しては、お迎えにあがった職員それぞれに、十分注意してもらっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	20			1	いつもありがとうございます。	「わからない」という回答があるという事は、お子様がどのようにならに過ごされているのか説明が不十分なためと考えられるので、保護者様に事業所でどのように過ごされているのか丁寧に伝えていきたい。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21				子どもの発達に合わせた個別支援を実施いただいている。	今後もお子様の特性に合わせて丁寧に細やかに支援を進めたいと考える。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19			2		「事業所が公表している支援プログラム」はABA療育を積極的に取り入れた取り組みをしていると、ご見学、ご契約の時に説明を必ず行っているが、そこが分からないとご意見を踏まえて、丁寧に説明を行いたいと考える。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1				「どちらともいえない」と言わせてしまうのは、児童館の責任であると考え。保護者様のニーズなどには積極的に耳を傾け、しっかり作成したいと考えるが、まずは保護者様との関係性を築きたい。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1				児童館として、適切に選択し支援計画を立てているつもりではあるが、ひょっとしたら保護者様のニーズと合っていないことがあるのかもしれないと感じる。保護者様のお話をしっかりと聞き、何をお悩みなのか受け止める必要があると感じる。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1				保護者様にとって行って欲しい支援と支援計画に相違があるのかもしれないと考える。今後もしっかりとお話を伺い、お子様のニーズ、保護者様のニーズのすり合わせをしたいと考える。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20			1		活動プログラムは現場の職員様が交代でイベントを創り出ししてきている。どの職員も精一杯、お子様が楽しめるイベントを考えてくださっている。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17		1	3		保育所や幼稚園のお子様との交流は、お相手が必要なことから難しいのではないかと考えるが、幸ひりなど、地域のお子様と触れ合える機会は設けている。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21					ご見学・ご契約の際に、教室の特徴や積極的に取り入れている支援や利用者負担に関してご説明している。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	2		2		面談の際に、保護者様には極力分かりやすく説明させてもらっているが、どちらともいえない、分からないという意見が上がるのは、それが不足しているという事なので真摯に受け止め、丁寧な説明を心掛けていく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21				様々なイベントを企画していただいている。 勉強会にて就学前の同級生の保護者さんと会話できたのが嬉しかったです。お話しできるように職員さんが取り持っていたき本当にありがたかったです。	保護者会やペアトレ、お父さんイベントなど、積極的にしており、保護者様に好評いただいている。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	20		1		いつも丁寧な説明をしてくださっている。	共通理解が出来ていないと思っていらっしゃる保護者様には、ご意見を真摯に受け止めフォローしたいと考える。
	16	定期的な、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	2	1	1	面談していただいている。	結果を踏まえ面談や子育てに関する適切なアドバイスができていないのだと痛感した。真摯に受け止め、もっと積極的に保護者様と関わりを持たねばならないと考える。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21				どの先生も普段の様子をきちんと共有いただいている。	職員は保護者様との関係性を築けていると考える。今後も事業所での様子、送迎時に伝えてもらえるよう協力を仰ぎたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18		1	2	BBQや手ほりなど皆で参加出来るイベントがある。	保護者同士が交流できる機会は積極的に設けている。しかし「いいえ」「わからない」とのご意見は、そのことを周知されていないと考えるので、今後もお便りなどで、イベントを行っている旨をお伝えしていきたい。きょうだい同士の交流の機会を設けることは、夏祭りやBBQなどでご家族参加を呼び掛けている。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	2	1	1		保護者様からお問い合わせがあった時に、適切な答えをお伝えすることができていないと考える。また自分自身で判断してお答えすることに戸惑いを感じる（一生懸命考えて出した結論でも、それが正しいとは限らず、お答えするのを中斷してしまつたため）。

保護者への説明等	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20		1			意志の疎通は行っているつもりだが、「いいえ」と答えてくださった保護者様に対し、しっかりと配慮した対応ができるよう、何を行えば良いか考えた。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	1			お手紙やSNSで様子が伝わってくる。	毎月、新聞を出し、ブログでも、都度ご様子をお伝えしているが、そのことをご存じではない保護者様がいらっしゃるのでは、お伝える。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21				写真の配慮をして頂いている。	個人情報には特に注意して取り扱っている。ブログにお子様のご様子をアップし、配信している。顔出しNGのお子様に関しては、新聞、ブログ共に、お顔が出ない配慮をしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19			2		全てのマニュアルを作成し、教室内に掲示しているが、保護者様には、そこまで説明しておらず、「分からない」とのご回答となってしまうため、フォローし、そのようなマニュアルが設置されていることをお伝えしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17			4		春、秋にそれぞれ必ず開催している（お子さまの特性上、有事に大人のお話が聞けることは大切なスキルであり、特にイレギュラーに弱いお子さまが多いため必ず行っていますが、そのことをお伝えできていないのだと考える。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19			2		安全を確保するための説明は契約時に行っている。活動中はお子様のご様子をしっかりと見守り、怪我のないよう気を付けているが、危険だと思われる箇所には職員を配置するなどの対応を行っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20			1		やむを得ず怪我となってしまう際は、早急に対応（ケガの様子により止血などの応急処置など）しながら、提携している病院に連絡、受け入れ可能であれば、保護者に連絡を取り病院に行く。受け入れ不可能な場合は受け入れてくれる病院を探し、そこに保護者様も同行していただいている。事故後は速やかに横浜市に連絡、対応を行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21				ニコニコ喜んで通っているので安心感を持っていると思う。	どのお子様も職員と仲良しで、安心して通える場所を提供できている事は素直に嬉しく、今後来て欲しい、安心できる場所を作っていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21				毎回、様々なプログラムが予定されているので楽しみにしている。特に興味あるプログラム（クッキングなど）の時に楽しみなようです。	各職員が考えるイベントは、どのイベントもお子様が好きように企画され開催されている。クッキングはお子様好きな活動の上位にあり、その他、スポーツ、季節の製作など、工夫している。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21				様々なプログラムで適切な声掛けをして頂けて満足している。	保護者様から頂いた貴重なご意見を真摯に受け止め、保護者様に信頼していただけるよう、自分も勉強し成長していきたいと考える。

## 公表 児童発達支援事業所における自己評価結果

公表日

2026年

1月

20日

事業所名

こぼんはうすくら 池辺教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		構造化は常に心掛けている	簡易な構造化でもご理解下さるお子様は多く、活動場所を分ける、区切る等の工夫は今後も必要と考える。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	4	午前中は放デイ職員が発達に入ってください。児童職員は自分の持ち仕事が行える。 午後、放デイのお部屋で遊ばせてもらえることにより昼寝をするお子様にもゆっくりしてもらえる。	曜日により差がある。申し送りの徹底と、人数配置だけでなく、子どもの障害に応じた職員配置が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	2階に事業所がある事を心配される声が多いので、昇降時は、職員が十分に注意して見守ることを徹底している。また最後尾には必ず職員が配置されるよう心掛けている。	簡易的な構造化ではなく、もっと分かりやすい構造化を図りたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		定期的な換気、必要に応じて消毒を行っている。また活動内容により、お子様の体温が上がったと判断した時は速やかに空調の調整を行っている。	お子さまにより「暑い」「寒い」の感覚が違うため、お子様の活動場所により、比較的涼しい所、暖かい所など、構造化で作れると良い。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個室があり、個別を行ったり、クールダウンに使ったりしている。ドアがあり、空いていても死角となりやすいので、近くに職員配置が必要。	約束を「守っているであろう」ことを想定し、見守りの目が薄くなることがある。常に危機感を持ち、お子様から目を離さないよう注意喚起していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1	5	児発管が申し出を行っていない。お子様に必要な支援を行う為にも現場の職員に、お子様の日頃のご様子や課題を伺うことは非常に大切と考えるが、現実に行えていない。	今後は現場の職員にもご協力いただき、お子様の目標設定や振り返りにご協力をお願いしていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	5	保護者向け評価表は職員日報に挟んでいる。職員様には必ず職員日報には目を通すようお願いしている。	児発管含め、業務改善に繋がっているという評価ができないという事は、児発管からの働きかけが弱いためと考える。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	5	児発管からの働きかけが少なく、職員の意見等を把握する機会がない。職員同士では、良く意見交換ができていと思われる。	児発管としての自覚を持ち、職員の意見が把握できるよう努めたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	第三者による外部評価は行われていない。	必要であれば外部評価を行っていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3	3	管理者が研修を行っている。外部の研修にも積極的に参加している。	今後も研修は積極的に受講したいと考える。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	支援プログラムは保護者様やご本人のご様子を見て、作成している。作成したものは職員様にお渡しし、カンファレンスシートと共に利用者日報に挟むようにしている。	直接、言葉でお伝えしないと分かりにくいことも多々あるため、今後は職員様と話す機会を積極的に取り入れたたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	1	5	アセスメントは保護者様に対し行っている。お子様の意思確認は、現場をのぞかせてもらい自分なりの手段で確認している。	アセスメントから面談までの日程が短いことが多く、保護者様にご迷惑をかけているかと思われるので、極力、急なご連絡とならないようにしたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	1	5	現場の職員様にお話を聞く機会は積極的に設けるようにしているが、皆様と一緒に検討を行うことは少ない。	支援計画を作成するのは児発管という認識が強く、今後は現場の皆様にもご協力を仰げるよう、職員の皆様との関係性を築きたいと考える。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	1	5	カンファレンスシートを挟むのみで、しっかりとカンファレンス会議を行えていないため、現場の職員様に計画に沿った支援を行っていただく事が難しくなってしまう。	しっかりとカンファレンス会議の時間を設け、どのように支援を行っていただきたいかお伝えしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用等により確認しているか。	1	5	標準化されたツールは用いていない。常に、お子様の支援計画を頭に入れ、現在のお子様の状況が、支援計画のどの辺りまで達成しているのかという部分に着目し観察している。	週に一度しか来所されないお子様は、観察できるチャンスが少ない事、お子様の「伸び」が解り難いこともあるため、意識して見るよう心がけている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	3	バランスよくお子様の支援に必要な項目が設定されているかは意識していない。必要であれば、家族支援も移行支援も行うつもりでいるが、積極的に出ているか、バランスがとれているかは自信がない。	総合的な支援を目指したい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	4	チームではなく、それぞれの職員が各々立案している。イベントがない日でも、各々が得意な事を子どもに仕掛けてくれている。	月間ごとにプログラムを作成する職員が決まっており、毎月担当者が変わる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	活動プログラムは職員の皆さまが固定化しないよう工夫してくれている。季節に応じたイベントを考えてお子様に季節を意識してもらえるようにしている。	今後もこの状態を継続したい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせなければならないことは知らなかった。そのお子様の課題が、集団時、個別時それぞれにある場合は組み合わせている。	2	4	個別活動と集団活動を適宜組み合わせなければならないことは知らなかった。そのお子様の課題が、集団時、個別時それぞれにある場合は組み合わせている。	集団活動の課題と、個別課題の課題を意識して、必ず両方入れるべきということであれば、今後は意識して支援計画を作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	4	朝礼で申し送りをしている。利用時間の変更や急なお休みなど、その場で対応している。	遅れて入る職員に申し送りをする職員がおらず情報共有出来ていないことがあった。特に児発は、その傾向が強いので、後から出勤する職員に申し送りを職員を立て、情報共有を図りたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	終了後の申し送りはない。何か問題が起こった際は、都度、下人と再発防止策について話し合っている。	問題が起こる前に防げるとなると良いと考える。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2	4	利用者日報を職員の皆様に書いている。児発管も、毎日のお子様の様子を記録しようとするが、自分の仕事に追われてしまい、なかなかお子様のご様子をきめ細やかに追いかける事は難しかった。	今後はもっと意識し、お子様の日々のご様子を自分の目でも追いかけていきたいと考える。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	1	5	モニタリングは行っている。時に保護者様へのご連絡が遅くなり、急なお断いをするところがあるので、時間に余裕を持った断いを心掛けたい。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	3	管理者と児発管は、ケース会議によく出席している。子供の状況は理解していると思っている。	ケース会議などは急に予定される事が多く、常にお子様のご様子を把握していなければならぬと考える。
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	4	急な事故などの対応には、連携した病院に行ってもらっている。保育、教育との関係機関とは、お迎えに行った際などに、お子さまについてお話させてもらっている。	必要であれば保育園・幼稚園訪問なども積極的に行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	保育園後、幼稚園後に来所されるお子様も多く、支援は行えていると考える。	今後も各機関と情報共有をしながら、支援を行いたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	卒業時のモニタリングには、就学の際に先生にお伝えしていただきたいことを書いている。就学すると放デイにバトンタッチとなる。	児発管のコミュニケーション不足で、管理者との連携が取れていない事が今後の課題と考える。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	5	その存在は知っているが、助言等を受けることは全くない。正直申し上げて、助言を受けただけで何かが変わるとは思えない(根本的な自分の問題で仕事に滞っていると考えのため)。	他者とコミュニケーションを取ることが苦手なため、相談しにくいという自分分りの問題があることは確かである。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	保育園、幼稚園、子供園など、正直、交流を持つ事は難しいのでは感じていた。しかし、意見交換会で、近所の保育園と関わらせていただいているというお話を伺い、働きかけてみたいという気になった。	今後は、交流をさせてくださる園を探してみたいが、時間的に難しいという所が本音。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者様にお会いできた時には、事業所での様子をお伝えしたり、家での様子をお伺いしている。	今後も継続して共通理解を持てるよう働きかけるため、常にお子様のご様子を気に掛けるようにする。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	管理者が行っている。	今後も定期的に、積極的にやっていくと思われる。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	2	ご見学、ご契約の時にお伝えしている。おかげさまで「説明されたか」の保護者アンケートは全て「はい」だった。	「説明されたか」では「はい」でも、必ずご説明している部分を「分からない」とする方もいたので、よりご理解いただけるよう丁寧な説明を心掛けたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	4	保護者様のご意向をしっかりと聞き取りたいと思っているが、信頼関係を築くのが難しく、なかなか本音をお伝えいただけないことは情けないと思っている。	それでも精一杯、自分なりに意向を確認する機会を設け、確認していくしか方法はないと考える。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3	3	面談の際、お子様が現在できていること、理解に繋がっている事、課題の部分をお伝えし、そのようなアプローチをすることで課題がクリアできるか丁寧に伝えるようにしている。	保護者様から同意を頂けなかったことはない。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	4	定期的という事がどの程度の頻度なのか分からないが、保護者様からお問い合わせがあった際には丁寧に対応しているつもりである。しかし時として的外れなことを言ってしまうことがあるので、注意したいと考える。	適切なスパンがあれば教えていただきたいです。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	ペアレントトレーニングや保護者会など、管理者が積極的に行っている。保護者同士のつながりをとても大切に考えており、似たような悩みをお持ちの保護者様の橋渡しをしている。しかし私は出来ない。	正直、どのように保護者様と関わる良いのか自信がなく常に悩みである。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	相談や申し入れがあった時に迅速に対応したつもりだが、結果、片手間となってしまい、再度、管理者に対応してもらうことが多いと感じる。	常に反省しているが、解決策が見いだせない。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2	新聞や、ブログは定期的に発行している。月間プログラムに関しても、定期的に配布している。	今後も継続して配信を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の扱いは非常に慎重に行っている。	今後も十分に注意する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		お子さまには分かりやすい声掛けを心掛けている。行って欲しいことを短い言葉で伝え、横世であればジェスチャー、絵カードなどを使用し、肯定的な声掛けを心掛けている。	今後もわかりやすく、伝わりやすさを心掛ける。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	地域住民を招待するイベントは行っていないが、近隣の小学校にあるコミュニティハウスのバザーなどは参加させてもらっている。	放デイが行っているバザーに、児発のお子様をお連れ下。とても喜んでいたので、今後も機会があれば地域の活動に積極的に参加させていただきたいと考える。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	4	放デイ部屋の壁面に掲示している。児発職員でそこを意識して見る職員は少ないので、児発管や古い職員が教えていく必要性は感じる。	そのようなマニュアルがあること自体、ご存じではない方が職員となる場合を想定し、必ずお伝え出来る職員（意識して池辺教室の詳細をお伝え出来る人）を配置する必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	4	定期的に行っているが、フィードバックを行っていないため、保護者様に伝わりにくいと感じた。また職員は「年に2度」避難訓練を行わなければならないことをご存じではない。	訓練の必要性を職員の皆様にお伝えし、月間プログラムに意識して入れて頂けるようお願いをする。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		アセスメントシートとフェイスシートは、常に鍵付き書庫に入っており、職員はいつでも見ることが出来るようになっている。新しいお子さまが来るときは、職員が意識して見てくれていると思う。	今後も継続していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	アレルギーは常に意識しているが、意志の指示書に基づく対応をしたことはない。	今後、必要であれば対応を検討する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3	避難訓練や研修は管理者が行っている。有事には、各職員の役割が決まっており、速やかに行動できる様になっている。	定期的にお伝えしないと意識が薄くなってしまいう方もいらっしゃるので、意識してお伝えしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4	契約時に、避難場所や連絡手段、有事の送迎などに聞してお伝えしているが、年月が経つことでお忘れになっている保護者様も多く、定期的に伝える必要があることを実感している。	定期的に配信したいと考える。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	4	事業所内で共有は出来ている。再発防止に向けた方策に関しても、職員と検討しているが、職員からの具体的な方だくが上がることは少なく、ほとんど児発管からのお願いの様になってしまっている。	今後は、現場の側面様にも積極的に意見を言ってもらえる機会を増やし、職員の方々の意識向上に繋げたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2	管理者が行っている。	今後も継続すると考える。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	4	そのような対応になった事はない。	組織的に話し合う必要があれば必ずその機会を設け、支援改革に記載するが、そのような児童を受け入れるかどうかに関しても検討が必要と考える。